

取手ウェルネスプラザ開館と上新町環状線開通 ～取手市～

取手市都市整備部都市計画課 係長 高橋 恭平



的公園「取手ウェルネスパーク」が一体的に整備されています。ウェルネスプラザには、「市民交流支援機能」「健康づくり支援機能」「子育て支援機能」の3つの機能が配され、それぞれの機能が互いに連携し、相乗効果が期待できる複合施設となっています。

利用者からの各種機能に対する評価も高く、市内外からの来館者数は、月平均で2万人を超えています。

【ウェルネスプラザの機能】

①市民交流支援機能

400席の座席と舞台、音響装置を備えた多目的ホールでは、市民の音楽発表会は勿論のこと、プロの演奏家のコンサートも開くことができます。自動収納の座席や舞台を収納すれば平場のホールとなり、展覧会やパーティなど、市民交流の場、文化発信の場として利用できます。その他、講座・会議等に利用できるセミナールームや、人々の滞留の場となるオープンテラス、ウェルネスパークも備えています。

②健康づくり支援機能

市立保健センターがウェルネスプラザ内に移転し、健診や相談機能の充実が図られ、健康づくりのための総合的な取り組みが行われています。その他検診室、相談室、クッキングスタジオ、健康スタジオ、トレーニングジムを備え、市民の健康づくりのアドバイス等を行っています。

③子育て支援機能

約300㎡の空間に、子どもの知力や体力の発達を促す遊具が置かれたキッズプレイルームでは、ゼロ歳児から小学生までの子どもたちがのびのびと遊ぶことができます。また、ここで子育て相談も実施されており、保健センターと連携した子ども・子育て支援を行うことができます。市内はもとより、県内近隣市町、千葉県柏市、我孫子市等からの子育て世代にもご利用をいただいています。

■取手市の現況

取手市は、人口約11万人、面積約6,994ha、うち市街化区域面積約1,809haのまちで、古くは水戸街道の宿場町として、近年は首都圏のベッドタウンとして発展してきました。東京40km圏の国道6号・JR常磐線が通る県境に位置するため、「茨城県の玄関口」としての役割を担ってきましたが、昨年の「常磐線上野東京ライン」の開通により、取手駅から東京駅、品川駅まで、乗り継ぎせずにそれぞれ最短40分、49分で結ばれ、その役割が強化されました。

取手駅、藤代駅、そして取手市と筑西市を結ぶ「関東鉄道常総線」の各駅の周辺に市街地が広がっており、なかでも常総線ゆめみ野駅を核とした「ゆめみ野地区」は、平成8年から現UR都市機構が区画整理事業を施行し、平成23年にまち開きを行った新しい市街地です。地区面積は約79.7ha、計画人口は6,100人で、地区内に小学校、近隣公園（約4.6ha）を配し、「人にやさしい街」「自然環境を活かした水と緑の街」「市民参加型の地域で育む街」をテーマにまちづくりが進められています。

市が直面する喫緊の課題は、他の自治体と比較しても早いスピードで差し迫る少子高齢化への対応です。市の高齢化率は昨年30%を超え、4年後の平成32年には3人に1人が高齢者となる将来推計が出ています。また、平成26年の合計特殊出生率は、全国平均の1.42を大きく下回る1.05という数値となっており、これらに早急に対応する政策、まちづくりを推進しています。

■ウェルネスプラザの開館

平成27年10月1日、取手駅前で行われている取手駅北土地区画整理事業地内に、「取手ウェルネスプラザ」が開館しました。約3,600㎡の敷地内に、鉄骨造地上3階建、延床面積約3,000㎡の建築物と、約1,800㎡の多目



取手ウェルネスプラザ

【ウェルネスプラザ整備の経緯・目的】

ウェルネスプラザの整備目的は、まさに少子高齢化対応です。平成21年、取手駅北土地区画整理事業地における土地利用構想の再立案に着手した際、策定作業の一環として、「取手らしさの再創」をテーマにまちづくりのアイデアを全国から公募した結果、多くの提案において少子高齢化に対応したまちづくりの必要性が示されました。これらの提案を踏まえ、また、市の少子高齢化の進展を鑑み、「健康、医療、福祉、そして環境」をコンセプトに掲げ、「市民の健康を増進し、活力を創出する中心市街地“ウェルネス・タウン取手の創造”」を新しい土地利用構想として策定しました。

以後、市は同構想に基づき、事業提案公募による複合医療施設「取手iセンター」の誘致、太陽光発電機能を持つ機械式自転車駐車場「サイクルステーションとりで」の整備、そして、それらの施設と取手駅を結ぶバリアフリー経路としてペDESTリアンデッキの延伸を行うなど、コンセプトに沿ったまちづくりを行ってきました。

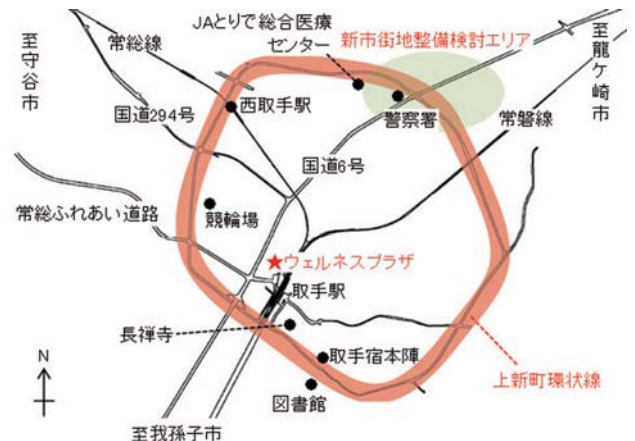
そして、ウェルネスプラザは、以上のような経緯・背景のもと、子どもから高齢者までの健康づくり、幸せ（生きがい）づくりの場として、構想の中核的施設として計画・整備されたものです。また同時に、施設利用者等の来訪と滞留がまちの賑わいを醸成し、これまで空洞化が進展していた取手駅周辺の中心市街地活性化に繋がることがあわせて期待されます。

今後も魅力ある、そして持続可能な中心市街地を創出するため、構想に基づいたまちづくりを進め、取手駅北土地区画整理事業の早期の完成を目指していきます。

【上新町環状線を活用したまちづくり】

同線の沿道には、JR取手駅、取手競輪場、常総線西取手駅、JAとりで総合医療センター（地域医療支援病院）、取手警察署、取手図書館等の公共施設が立地し、また、県指定有形文化財である「旧取手宿本陣」や、全国でも珍しいさざえ堂形式の堂宇を持つ「長禅寺」、とりで利根川大花火大会の会場「取手緑地運動公園」、JA農産物直売所「夢とりで」など、観光・レクリエーション資源も点在しています。

今後、市は、「歩くこと」が健康増進・維持に繋がるといふ科学的根拠に基づき策定された「スマートウェルネスとりでの推進」の方針に基づき、各種機能・資源に富む同線をウォーキングコースとして整備し、健康づくりに活用していく予定です。平成27年中に完成したウェルネスプラザと上新町環状線という2つの都市施設を活用して、市全域を対象とした健康づくり、まちづくりを進めていきます。



■ 上新町環状線の全線開通

平成27年11月25日、取手駅周辺の中心市街地を含む市街地エリアを環状に連絡する都市計画道路3・4・3号「上新町環状線」が全線開通しました。同線については、これまで県と市が共同で整備を行い、完成区間等から漸次供用を開始してきましたが、最後に残された、常磐線鉄道をオーバーブリッジで跨ぐ「井野工区」（1,390m）の整備が昨年完了し、昭和36年の計画決定から実に54年の歳月を経て、環状線としての開通を迎えることができました。

同線の開通により、国道6号と常磐線によって分断されている市域東西の交通が円滑になり、中心市街地の通過交通が分散され、さらに地域間の連携が強化されることなどで、市の活性化に繋がることが期待されます。

都市計画道路3・4・3号上新町環状線	
計画決定年月日	昭和36年11月9日
延長	8,280m
代表幅員	16m
概算総事業費	約160億円（うち市施工分約64億円）

■ 新たな商業・業務拠点の整備に向けて

上新町環状線の全線開通を契機として、市は、沿道地区となる桑原地区への商業・業務・流通機能等の立地による新市街地整備事業を計画しています。同地区は、取手駅周辺の中心市街地から北東へ約2km、国道6号と上新町環状線が交差するエリアに広がる市街化調整区域の約67.6haです。取手駅周辺市街地と藤代駅周辺市街地を結ぶ南北軸の中間地点に位置する同地区は、取手市都市計画マスタープランにおいて、「新規土地利用創出ゾーン」と位置付けられており、多くの人々が集い、交流することができる複合商業施設など、新たな産業拠点の土地利用を推進するものとされています。

この桑原地区において、大規模な商業・業務施設の立地を核とした土地区画整理事業での市街地整備を目指し、現在検討が進められています。昨年には、地権者による土地利用の検討組織も立ち上がり、事業化に向けた検討会等を進めているところです。上新町環状線全線開通という推進材料を得た今、市も地権者の皆さんとともに、新たなまちづくりの実現に取り組んでいきます。